

自粛明けで人出が急増のいま――「どこに座るか」が命を左右する

# 電車、飲食店、オフィス ほし

## わかりやすい [完全図解ガイド]



電車に乗る、レストランで食事する、会社で同僚と顔を合わせる――普段の生活が戻ってきたのはうれしいが、その半面、心配になるのが感染リスク。どうしても外出しなければならないときに知っておくべきは、よく行くスポットには「感染する席、しない席」があることだ。

# 感染する席、しない席

## 「換気扇の真下」は安全? 危ない? 「飛行機」は窓側? 通路側?

電車は「後ろ側の席」で  
「手すり」を触らない

6月に入つて電車の乗客が増えているが、新型コロナウイルスの脅威が

## 飛沫シミュレーションで解析

予測とその対策」では、窓の開閉や空調・パーテーションなどによる飛沫感染のリスクをシミュレーションした。その結果、

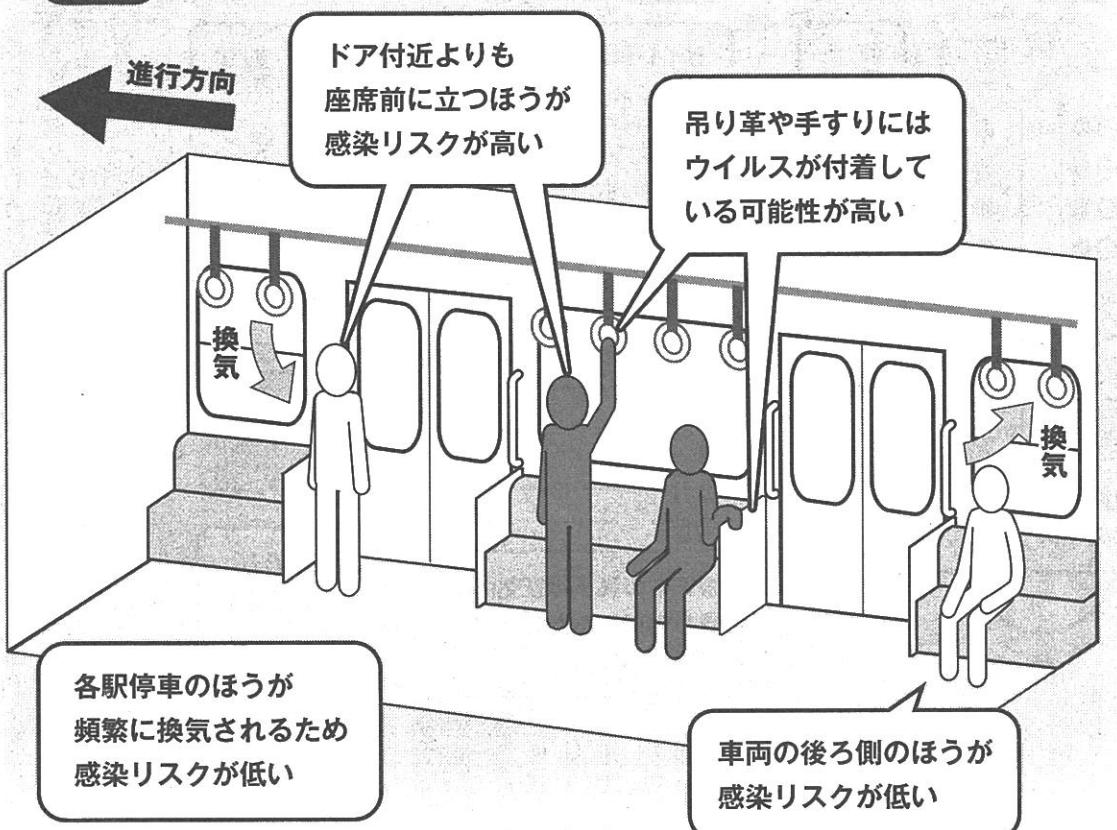
去ったわけではない。  
対策として、鉄道各社はほとんどの車両で「窓を開け運転」を行なつていい。だが、換気された車両内でも「空気の流れ」に気をつけて座席を選ぶべきだ。理化学研究所所属で神戸大教授の坪倉誠氏による報告書「室内環境におけるウイルス飛沫感染の

予測とその対策」では、窓の開閉や空調・パーテーションなどによる飛沫感染のリスクをシミュレーションした。その結果、電車が窓を開けて走行した場合、窓から入つた空気は車両内で後方に向かって循環し、反対側の窓から再び外に出ることがわかつたという。つまり、換気された車

飲食店やオフィスなどの  
対策が必要

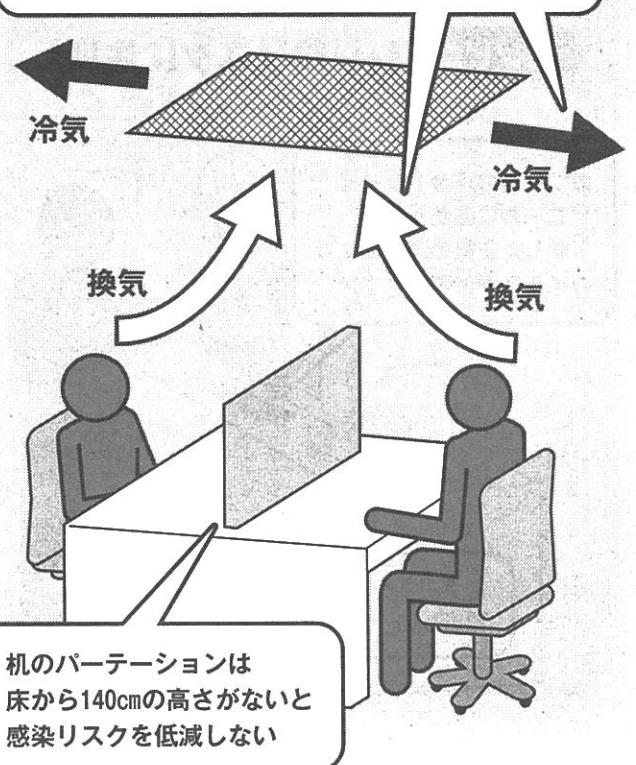


## 電車 「各停」「ドア付近」「後ろ側」がベスト



## オフィス 「エアコンの下」は避ける

天井カセット式の空調は部屋の空気を下から吸い込むため、真下の席は感染リスクが高まる



両内では進行方向に対し後ろ側にいるほうが感染リスクを下げるというのだ。

電車内の位置取りには

他にも注意点がある。感染症を専門とする関西福祉大学の勝田吉彰教授（渡航医学）が指摘する。

「立って乗車するなら、

頻繁に換気されるドア付近のほうが望ましい。急行よりも各駅停車の車両のほうが頻繁にドアが開いて換気されるうえ、密集・密接を避けやすい。

また、吊り革や手すりにはウイルスが付着している可能性があるので、降りたら手洗いや消毒を欠かさないでください」

オフィスは「エアコンの真下」を避ける

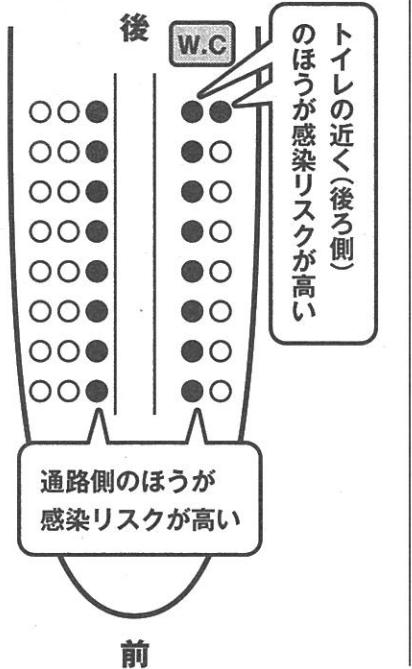
株式会社環境シミュレーション代表取締役の阪田升氏が指摘する。

「天井に取り付けられた空調機器（天井カセット型）の場合、冷気を直横に出しますが、同時に人の呼気を含む室内的空気を真下から吸い込んでいます。

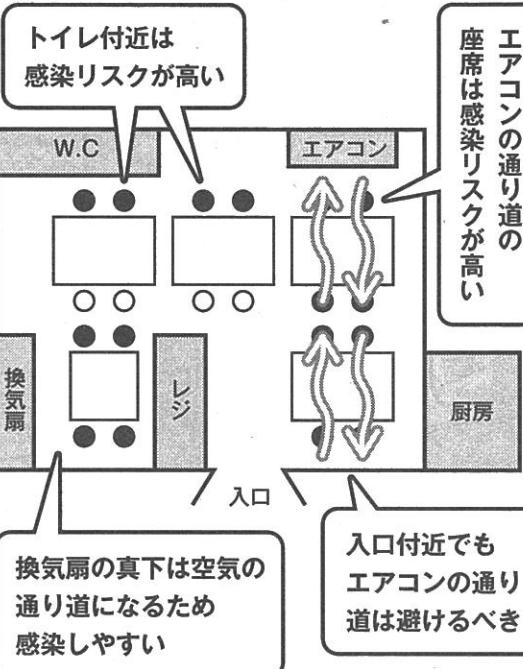
オフィスの机や会議室で空調の真下にいると、空気の通り道になつて感染リスクが高くなるため、避けたほうがよい」

前出の坪倉教授の報告書では、対面するように机が配置されている場合、

## 飛行機 「前方窓側」が正解



## 飲食店 「換気扇の下」はNG



## 慌てて参入した店の衛生管理は…… テイクアウト・デリバリーで 食中毒リスク「ある店、ない店」

急増した飲食店のテイクアウト・宅配サービス。これから季節は注意が必要だ。

特に夏場はサルモネラ菌や腸管出血性大腸菌のO157が食中毒の原因となりやすい。しかし、急ごしくてテイクアウトに参入した飲食店には、衛生管理の知識が不十分な店舗も少なくない。温かい料理の粗熱を取らず、冷たい野菜類や半熟卵などと一緒に容器詰めするなど、菌の増殖を招きかねない「危険」なケースもあります」（フードジャーナリスト・池田恵里氏）

作り置きの弁当などを陽射しの強い店先で陳列・販売する店もあるが、「食中毒菌は気温30～37度が最も繁殖しやすいとされる。テイクアウトは『その場で調理されたもの』を『すぐに持ち帰り』、『時間を置かず

食べる』ことが大原則」と池田氏は指摘する。

一方、宅配サービスは調理や配達の過程が見えにくいため、信頼のおける店舗・業者が否かの見極めが重要だ。

大手「出前館」では、「商品ピックアップから20分以内に配達できるエリアの細分化や、保温バッグを使い分け商品管理を徹底している」というが、業者によって方針はまちまちだ。ある宅配業者の配達員が話す。

「時には30分以上かかる配

街中、配達員だけ

があります」（フードジャーナリスト・池田恵里氏）

「夏場はリスクにもなり得るスタッフもいた」

「最近は配達員との接触を避ける『置き配』が増えているが、うつかり長時間放置されることもあるし、商品を床に直置きするため衛生面にも懸念がある。利用時は、到着したらすぐに商品を受け取ってほしい」（同前）

新しい選択肢が広がるとともに生じる、新しいリスクにも注意したい。

排泄物から  
ウイルスが……

## トイレの近くには飛沫リスク大

コンビニのレジは  
「おつり」に注意

が必要だ。

「換気扇の真下」も警戒ポイントだという。

「天井カセット型の空調と同じ理屈で、換気扇の真下の席は店内の空気が通るため、感染リスクが

床から高さ140cm以上のパーテーションを設置すると、感染予防に役立つと結論づけている。それより低い場合は、ビニールシートなどで簡易パーテーションを設置するだけでも、予防効果を高められるという。

レストランでは「換気扇の真下」はNG

米疾病対策センターが

「換気扇の真下」も警戒ポイントだという。

「天井カセット型の空調と同じ理屈で、換気扇の真下の席は店内の空気が通るため、感染リスクが

が高まる」（前出・阪田氏）

どの座席に座る際にもマスクを机の上に置いたり、椅子の裏を触ったり

するなどウイルスが付着するリスクがあるので注意が必要だ。

「新型コロナは感染者の排泄物を経由した二次感染リスクが指摘されており、政府の専門家会議もトイレでの感染に注意を呼びかけています。便座のフタを閉めずに流せば、ウイルスの飛沫が拡散する可能性があるので、トイレの近くの座席は念のため避けたほうが無難です」

高まる（前出・阪田氏）

マスクを机の上に置いたり、椅子の裏を触ったり

するなどウイルスが付着するリスクがあるので注意が必要だ。

「最近は手と手が接触しないようにおつりを現金トレイに置く店舗が増えていますが、このトレイにはウイルスが付着している可能性がある。ウイルスの飛沫が、レジ前に設置された感染予防のビニールにぶつかり、現金トレイに落ちてくること

が、飛沫予測シミュレーションによってわかつて

います」（前出・阪田氏）

感染する席、しない席を見極め、今後の生活のリスクを最小限にしたい。

